

福祉大会表彰

港南区社会福祉大会は、多年にわたり、地域福祉活動の増進に功績のあった方々に感謝の意を表し、地域福祉の一層の充実を図っていくことを目的として開催しています。令和4年11月9日(水)、横浜市港南公会堂で行われました。表彰を受けた方々は次の通りです(敬称略・順不同)。

ボランティア活動功勞

●表彰

<個人>10名 壽山つね 大橋綾子 大木栄 田造君代 幸山玲子 大沼政子 藤井芳江 服部ハツミ 内山隆代 谷口登志江  
<団体>1団体 港南台同華会(代表 千葉佐香)

●感謝

<個人>11名 小林伸 笹きぬ子 湯本照子 新見宏 望月富子 高橋摩美 廣島真由美 上原順子 高橋勲子 高橋千津子 内山浩一  
<団体>5団体 ひまわり絵手紙 トマトクラブ ゆらり ダーツin カワセミ ひまわりサロン「おおきた」

地域活動功勞

●表彰

<個人>2名 渡邊照夫 濱田光雄

●感謝

<個人>3名 杉本美栄 瀧田正子 太田由美子  
<団体>2団体 沢ヶ谷自治会「カフェきらく」 福祉ネットワーク「ピープル日下」

金品寄付功勞

<個人>3名 齋藤勝芳 鈴木隆 辻好貞  
<団体>1団体 株式会社 清光社

特別功勞

<個人>1名 横川朱實

募金のご報告

令和3年度赤い羽根共同募金・年末たすけあい募金

令和3年度の共同募金のつかいみち  
17,177,765円  
赤い羽根 12,267,329円  
年末たすけあい 4,910,436円

1 身近な地域の見守り・たすけあい事業へ  
3,000,000円

◆区内15地区社会福祉協議会へ(ひとり暮らし高齢者の見守り訪問・サロン活動・食事会・住民支え合いマップ作成、地域のちいさなお困りごとへの支援など)

2 高齢者・障がいのある方・子どもたちへ  
8,865,436円

◆ひとり暮らし高齢者への配食サービス  
◆地域交流・居場所づくり(多世代交流活動、不登校・ひきこもり支援) ◆家事・介護の支援、外出介助、見守り活動など非営利活動 ◆子育て支援 ◆障がい児・者の余暇支援活動・訓練会など

3 社会福祉施設の大型備品整備へ  
4,130,000円

◆区内保育園 避難用すべり台改修 ◆区内事業所(2か所)車両購入

4 区社会福祉協議会事業へ 533,180円

◆社協だよりの発行 ◆災害見舞金の支給 ◆低所得者への旅費等援護費 ◆福祉大会の開催など

5 県内の福祉施設・団体へ 649,149円

令和4年度 日本赤十字社会費募集運動

国内外の救援活動や区内の救急法講習会の開催、地域福祉活動支援、罹災世帯への災害見舞金にあてられます。

会費 10,070,758円(令和4年9月末現在)

お詫びと訂正 「社協だより KoNan」No.76に掲載いたしました「令和2年度 港南区 特別賛助会員」欄の表記に誤りがありました。心よりお詫び申し上げます。

令和2年度 港南区 特別賛助会員(敬称略)  
(誤) 株式会社古谷商店  
(正) 株式会社古屋商店

善意銀行

港南区の高齢者・障がい者をはじめとするさまざまな方を支援するため、有効に活用しています。

【善意銀行寄付金】 1,047,133円  
(令和3年11月1日～令和4年9月末受付分)

●寄付者一覧(順不同・敬称略)  
下永谷地区社会福祉協議会 港南区民謡民舞連合会 齋藤 勝芳 ヨコタコーポレーション Group 司法書士ともえ事務所 港南区クリスマスチャリティコンサート実行委員会 大澤誠 株式会社中信 相川昌三 上大岡芸能友の会 アースフレンドフェスティバルマトリックス社 KoKeiko 鈴木隆利根川和代 株式会社清光社 井本剛司 星川暁 ほかに匿名寄付者 15名

特別賛助会員

令和3年度の港南区社協特別賛助会員は次の通りです(敬称略・順不同)。

<個人>2口 田沢ハル子

<法人>2口 港南台家光クリニック 有限会社稲村クリーニング店 建設情報サービス株式会社 株式会社高森 やはぎクリニック 株式会社一幸堂 上大岡公証役場 株式会社サカエ塗装 東京ガスエコマ株式会社 横浜葬祭情報センター

<法人>1口 有限会社荒井管工 株式会社あんざい 有限会社石力石材店 小原オートサービス株式会社 有限会社加藤量店 成寿山善光寺 医療法人社団厚済会上大岡仁正クリニック 横浜東邦病院 医療法人真心会上永谷さいとうクリニック 中島整形外科 株式会社くらしの友横浜南営業所 株式会社ふじばす 株式会社京急メモリアル上永谷斎場 本願寺横浜別院 有限会社港南建設 港南テクニクス株式会社 株式会社ツクイ 宗教法人自性院 根本建設株式会社 ねもと有限会社 株式会社清水康益社 株式会社清華樓 有限会社佐藤組 株式会社セントラルホール横浜葬儀社 有限会社中央美工社 有限会社祓月技建 株式会社古屋商店 有限会社丸吉商事

編集後記 コロナによって地域活動が停滞して3年になる。初めは感染が怖かったが、だんだん活動開始に向けてのやる気が萎えてきてはいないだろうか？ 気持ちを奮い起こして、アフターコロナ、ウイズコロナに立ち向かっていく気概や勇気があるだろうか？ 今回はそんな厳しい状況の中で実直に取り組んできた3つの事例をお届けしたい。これが刺激になって「ピンチはチャンス」に変わるきっかけになりますように。(K・T)

港南区社会福祉協議会広報委員 小松博之 佐藤正市 渡邊正一 石川勝也 田村加代子 野間肇 稲葉幾代 保永博行

社会福祉法人  
横浜市港南区社会福祉協議会

〒233-0003  
港南区港南4丁目2番8号3階(そよかぜの家3階)  
港南区福祉保健活動拠点内  
TEL:045-841-0256 FAX:045-846-4117  
URL: http://www.kounan-shakyo.jp/ E-mail:toiawase@kounan-shakyo.jp

●この広報誌は、赤い羽根共同募金の配分金により作成しています。 ●港南区社会福祉協議会では、事業計画・報告並びに収支予算・決算についてホームページに掲載しております。また冊子をご希望の方は事務局までご連絡ください。 ●「社協だより こうなん」音声訳版(CD)もボランティアグループ「港南音訳ボランティアいとはんわ」の協力により作成しています。ご希望の方は港南区社会福祉協議会までご連絡ください。

●防災意識の共有・支援 みんなでつくる「地域防災拠点」とは  
●地域コミュニティの育成 カフェからマルシェへ「縁側コミュニティ」の進化と充実  
●子どもを見守る・行事を続ける 地域の輪を広げる七夕まつり  
<中高生の取組> 「捨てない」を当たり前!  
横浜市立南高等学校・南高等学校附属中学校

～ふるさとを感じて、安心して暮らせるまちへ～

特集 チャンスを生かして変えていく



笹下台団地のみなさん



# チャンスを生かして変えていく

～ふるさとを感じて、安心して暮らせるまちへ～

それぞれの地域で、いろいろな人たちが出来ることから取り組んでいる  
ふるさとづくり、安心できるまちづくり。  
その一例を紹介します。

## 永谷小学校地域防災拠点での取組◆下永谷地区

### みんなでつくる「地域防災拠点」とは

地域防災拠点は避難場所であるとともに情報の収集、援助物資やボランティアを受け入れる場所。災害時、地域を支える重要な役割を担っています。

もし、大地震に見舞われたら、私たちはこの場所を拠点に避難生活や復興を進めなくてはなりません。そのためにはさまざまな視点で訓練を行い、災害に対応できる仕組みが必要です。

下永谷地区では令和2年より、障がい児・者とその家族を対象にした取組を開始しました。参集訓練では障がい児・者とその家族、避難場所となる永谷小学校の校長と話しあい、避難に適した教室の見直し・変更を行いました。

訓練では、訓練後に意見交換、備蓄庫見学を実施。次のような意見や指摘がありました。

- おむつ交換ができる場所がない
- 使い慣れた紙おむつを備蓄できるといい
- 電源を確保したい など

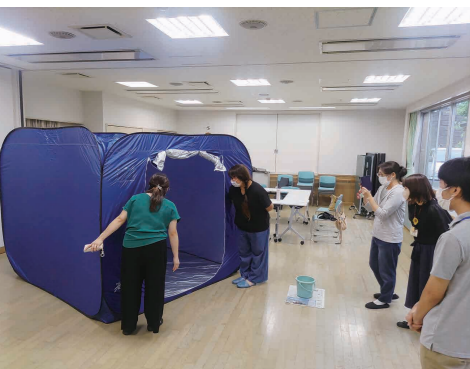
こうした声に応え、令和3年度、永谷小学校地域防災拠点運営委員会はおむつ交換もできる多目的テント（屋内外用型）を新たに購入しました。

令和4年度の会合では、多目的テントのお披露目と意見交換を行い、今年度中に障がい児・者とその家族が自らテントの設営や発電機の操作訓練をし、援助を待つのではなく、自ら行動を起こすことを掲げた訓練を実施しようと確認し合いました。

**地域防災拠点とは** 市立小中学校を指定避難場所として防災備蓄庫を設置し、防災資機材・食料などを備蓄。デジタル移動無線も配備されている。港南区内には33か所。



備蓄庫の見学の様子



多目的テントのお披露目

令和3年の拠点防災

## 「捨てない」を当たり前！◆横浜市立南高等学校・南高等学校附属中学校

KoNan  
スポット



「食品ロス問題をなんとかしたい」「地域の皆さんとつながるきっかけが欲しい」…さまざまな思いから、横浜市立南高等学校・南高等学校附属中学校の生徒12人がフードドライブ\*を企画・実施しました。

令和4年6月、校内で食品の募集を呼びかけたところ、2日間でレトルト食品や缶詰など長期保存できる食品が220点近く集まりました。令和4年7月、段ボール7箱に全ての食品を詰め、横浜市港南区社会福祉協議会へ寄付。食品は区内の生活困窮に陥っている人の支援に活用されました。

今後は活動の場を同校のある地域へ移し、住民の皆さんへ直接働きかけながら、必要な人に必要なものが届くよう取組を継続していきます。

\*フードドライブ 各家庭で使い切れない未使用の食品を持ち寄り、フードバンク団体や地域の福祉施設・団体などに寄付する活動。

## 笹下台団地シルバークラブ笹寿会の取組◆笹下地区（笹下台団地）

### カフェからマルシェへ

### 「縁側コミュニティ」の進化と充実



かつて実施されていた「ささカフェ」の様子

港南区の北東に位置する小高い丘の上にある笹下台団地、買い物から帰るにも荷物をもって坂を上る環境です。そんな団地内の交流の場として毎週木曜にコミュニティカフェ「ささカフェ」がシルバークラブ笹寿会主催で

開かれていましたが、コロナ禍のため中止に。そんな折、以前から買い物の不便解消を検討していたところ、港南区社会福祉協議会と港南中央地域ケアプラザから、コンビニの移動販売車導入の提案を受けて実施。

その後、横浜市中央卸売市場「株式会社つま正」が野菜・果物・味噌・米等の販売を開始、地域活動支援センター「いなほ」や「そよかぜの家」の出店が始まりました。

「ささげ台 Marché」と名付けられ、団地のシルバークラブ笹寿会をはじめ団地内のさまざまな方が参加するようになりました。集まった人たちがお互い声を掛け合って、「ささげ台 Marché」の開店前には体操やゲームを楽しむ人があ

り、買い物が終わっても、幅広い年代の住人同士が顔を合わせ、おしゃべりを楽しむ人が多く見られました。

自立と支援を目標に掲げ困難な課題を解決しようとする動きが、変えていくきっかけとなりました。カフェが「買い物」というキーワードにより新しい「縁側コミュニティ」への進化を遂げたのは、関わる人たちの自主的な発想と行動があったことです。

やってみて面白そうと思ったらまずやってみる姿勢、ダメならやめればいけないという気楽な気持ち、参加する



取材した日の会場の様子



ある晴れた日の「ささげ台Marché」の様子

方々それぞれが自ら発案して自ら新しいことに取り組んでいく「ささげ台 Marché」、これからもゆるやかにつながるこの縁側になっていくでしょう。

## 吉原西町内会・西寿クラブの取組◆日野第一地区

### 地域の輪を広げる七夕まつり

吉原西町内会西寿クラブの会長、山形さんの家の庭には竹が植えられています。今から10年ほど前、その枝先に通りがかった小学生が七夕飾りを付けていきました。

この出来事をきっかけに、山形さんは西寿クラブのメンバーに多くの子どもたちが参加できるよう七夕まつりを盛り上げていこうと持ち掛けました。そして、メンバーの協力により七夕の前には大きな孟宗竹にたくさんの飾りが付き、雰囲気は高まってきました。

地域の人たちがこの行事を知るにつれて、手作りの飾り

を持ち寄って竹に付ける子どもや家族が増えていきました。しかし、この3年間はコロナの影響で見送りとなりましたが令和4年7月2日、日野吉原公園を会場に3年ぶりに実施することができました。

会場では検温と手指の消毒を徹底しました。集まったのは子どもも含め住人およそ200人。飛び入り参加した港南阿波おどり愛好会のみなさんも祭りを大いに盛り上げてくれました。

小学生の行動から始まり、広がっていった地域の七夕祭り。回を重ねるごとに参加者が増えていくことに、西寿クラブのメンバーをはじめ、祭りに関わる全ての人を手ごたえを感じています。毎年のように続けていきたい、祭りを支える人々を増やしたい。…課題はあるものの、この10年で七夕まつりは地域の輪を大きくしてくれました。



たくさんの子どもが参加

短冊を飾っている様子



港南阿波おどり愛好会